

渡辺研究室

[光合成の分子メカニズム解析]

生産技術研究所 サステイナブル材料国際研究センター
International Research Centre for Sustainable Materials

http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/Labs/wata_lab/watanabej.html

生体機能関連化学

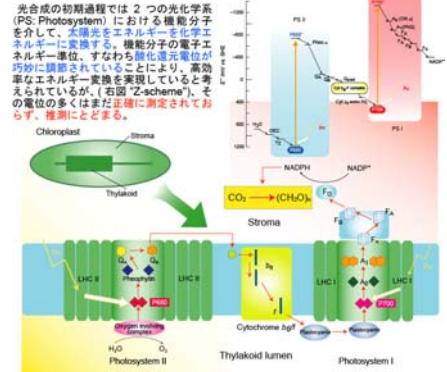
化学生命工学専攻

光合成の分子メカニズム解析

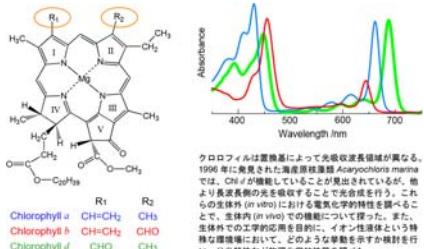
Molecular Mechanism of Photosynthesis

あらゆる食糧・化学燃料の源をなす光合成は、光→電子→化学エネルギー変換を行う分子システムといえる。このエネルギー変換の効率は非常に高く、人工的な光変換デバイスを設計する上でも貴重な手本となるが、分子レベルでみるとメカニズムにまだ不明な点が多い。当研究室では以下のような側面から光合成のミクロな素顔に迫っている。

- ①光エネルギー変換を担う光合成反応中心の分子解明
- ②反応中心電子伝達鎖のエネルギー準位(レドックス電位)相関の解明
- ③光合成による水の酸化→酸素発生メカニズムの解明
- ④光合成色素分子(クロロフィル類)の生体外(*in vitro*)での物理化学的特性
- ⑤光合成系/半導体電極界面における光電気化学プロセスの解析と応用

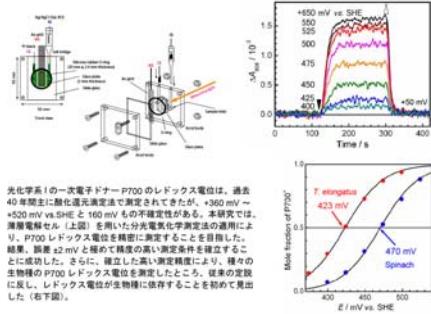


光合成色素分子の物理化学的特性

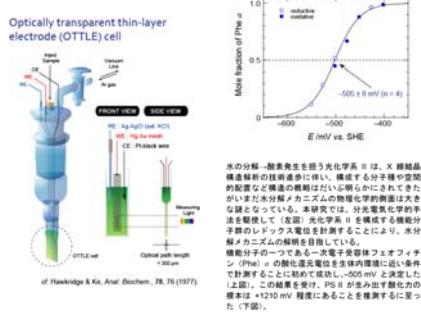


■ M. Kobayashi, T. Watanabe *et al.*, *BBA*, **1767**, 596-602 (2007).
■ K. Kuroiwa, Y. Kato, T. Watanabe, *J. Photochem. Photobiol. A*, **202**, 191-195 (2009).

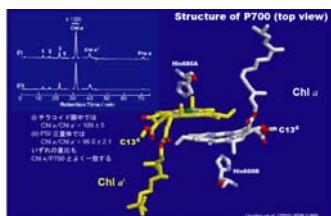
電子伝達鎖のレドックス電位相関解明



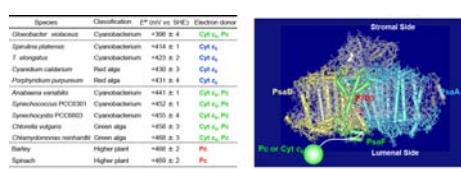
水の酸化→酸素発生機構解明



光合成反応中心の分子解明



シアノバクテリア *Thermosynechococcus elongatus* の光化学系(PSI)反応中心の分子組成を高通量液体クロマトグラフィー(HPLC)で追跡した結果、反応中心には1分子のChl a' (多量色素 Chl aのC13'エピマー)が存在することを確認した(左上)。その後のX線結晶構造解析の結果(Jordanら 2001年にNature誌で報告)反応中心一次電子供与体P700の必須部品であることが判明した。

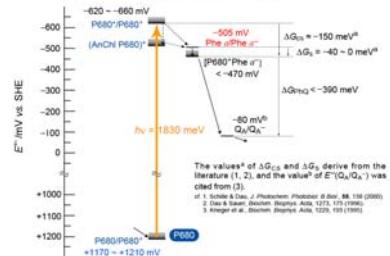


一連の酸素発生型光合成生物のP700 レドックス電位を計測したこと、生物種によってP700 レドックス電位が異なることが示された(左図)。おほか P700 レドックス電位は順序に異なることが分かり、進化的過程に沿ってP700 レドックス電位が(+/-)にシフトしているものと考えられる。

生体内において、光触媒したのち酸化したP700'は、電子供与体である水溶性電子伝導タンパク質シトクローム c₁あるいはプラストシタニアニンによって再還元される(右図)。生物種によって水溶性タンパク質の種類は異なるが(両方にある生物もある)、この種類とP700 酸化還元電位に相關が見られた。

■ A. Nakamura, T. Suzawa, T. Watanabe *et al.*, *Chem. Lett.*, **33**, 688-689 (2004).
■ A. Nakamura, T. Suzawa, Y. Kato, T. Watanabe, *FEBS Lett.*, **579**, 2273-2276 (2005).
■ Y. Zhang, A. Nakamura, Y. Kuroiwa, Y. Kato, T. Watanabe, *FEBS Lett.*, **582**, 1123-1128 (2008).
■ T. Tomo, Y. Kato, T. Watanabe *et al.*, *J. Biol. Chem.*, **283**, 18198-18209 (2008).

Renewed diagram for PS II energetics based on the redox potentials



The value^a of ΔG_{O_2} and the value^b of $E(Pheo_2^{\bullet}/O_2)$ was cited from (3).
1. Schildknecht, J. *J. Photochem. Photobiol. B*, **88**, 159 (2008).
2. Dau, S., and Beckman, B. *Plant Physiol.*, **133**, 173 (2003).
3. Kriegel, M. *Plant Physiol.*, **122**, 173 (1999).

■ T. Shibamoto, Y. Kato, T. Watanabe, *FEBS Lett.*, **582**, 1490-1494 (2008).
■ Y. Kato, M. Sugiyara, A. Oda, T. Watanabe, *Proc. Natl. Acad. Sci. U.S.A.*, **106**, 17365-17370 (2009).
■ T. Shibamoto, Y. Kato, M. Sugiyara, T. Watanabe, *Biochemistry*, **48**, 10682-10684 (2009).
■ T. Shibamoto, Y. Kato, T. Tomo, T. Watanabe *et al.*, *FEBS Lett.*, **584**, 1526-1530 (2010).